

2022年度
事業計画書
収支予算書

自 2022年 4月 1日

至 2023年 3月31日

一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

2022年度事業計画

■ 基本方針

東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に高まった、全ての人が共に生活できる社会の実現の機運を更に促進させるため、展覧会および舞台芸術公演等を開催し、これら事業の実施を通じて多様な価値観や生き方があることを伝え、それぞれの個性を祝い、支えあう社会のあり方を探り、人々の固定観念を変える契機となることに寄与することを目的として事業を行う。

■ 障害者の芸術活動に関わる展覧会の運営及び情報発信

1. 目的・目標

障害者による表現活動を展覧会、Web、紙媒体、公募事業等を通じて周知し、それをきっかけに障害者への理解を高め、より良い在り方や新たな関係性や試みを生み出し、多様な個性を祝うインクルーシブな社会の実現を目指すことを目的とする。

本事業の推進により、1)障害がある人が製作するアート作品及び「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS」の取り組みに対する認知拡大を促進し、2)展覧会等の実施や情報発信を通じて障害福祉に関わる意識変革を推進し、3)障害がある人自身が自己の可能性を見出し、自己実現の可能性を高める一助となり、4)東京オリンピック・パラリンピックの開催により高まった機運の更なる醸成を図ることを目指す。

2. 事業内容

■ 企画展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展（仮称）」事業

a. 企画展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展（仮称）」

企画展『日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 展（仮称）』は、障害者と芸術文化への認知拡大や多様性の意義と価値を広く伝えることを主な目的に、当初、東京オリンピック、パラリンピックの開催時期にあわせた2020年7月から約2か月間、船の科学館（東京・お台場）での開催を予定していた。しかし、2019年末から発生した新型コロナウイルスの世界的規模の感染拡大に伴い、本企画は開催時期を延期するとともに、2019年に開催したイベントの開催実績も考慮した上で、事業内容を一から見直すこととした。今後、障害福祉やアートに接点の少ない一般の若年層を主なターゲットに、船の科学館での開催とWeb等による非対面型の方式を軸とした多角的なイベントの開催を目指す。

■ 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展事業

a. 「第4回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」 展覧会の開催

2021 年度に募集した作品の中から主として入選作品を展示した展覧会の開催。

名 称 第4回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展

主 催 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

共 催 社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団（横浜会場）

協 力 国際障害者交流センター ビッグ・アイ

Bunkamura（東京会場）

展覧会アートディレクター 中津川浩章 美術家／アートディレクター

会 場 <東京会場>

会期 2022年4月13日(水)～4月24日(日)

時間 10:00～19:00（13日(水)は12:00 OPEN）

会場 Bunkamura Gallery/Wall Gallery

<横浜会場>

会期 2022年4月27日(水)～5月1日(日)

時間 9:30～18:00（4月29日(金祝)、5月1日(日)は17:00まで）

会場 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール

内 容 <東京会場>

・ 第4回 受賞作品（9点）、入賞作品（54点）、
国外佳作作品（7点）、別枠作品（11点）の展示

<横浜会場>

・ 第4回 受賞作品（9点）、入賞作品（54点）の展示

※東京会場初日に、報道関係者向け内覧会を実施。

b. 「第5回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」の開催

障害のある人にアート活動の機会を提供し、有能なアーティストの発掘、支援を行い、社会に発信することを目的に、障害のある人を対象にしたアート公募展を実施。

(1) アート作品の公募

・ 期 間 2022年6月15日(水)～6月30日(木) ※国内外応募一斉受付

・ 募集内容 国内外を問わず、障害のある方が制作したアート作品で過去に受賞歴のない作品。

・ 応募点数 1作者につき3点以内

・ 出品規格 絵画、イラスト、グラフィックデザイン、書、写真、造形など。
素材やテーマは自由。

平面作品 1辺 200 cm以内、2辺合計 320 cm以内

立体作品 高さ 200 cm×幅 150 cm×奥行 150 cm 重量 50 kg以内

(2) 公募作品の審査・選考

・審査員 秋元 雄史

東京藝術大学 名誉教授／練馬区立美術館 館長

上田 バロン

FR/LAME MONGER 代表／イラストレーター

エドワード M. ゴメズ

brut journal 創刊者 兼 編集長

中津川 浩章

美術家／アートディレクター

永野 一晃

写真家

望月 虚舟

書家

・審査方法 <一次（書類）審査>

国外は7月下旬、国内は8月中旬に審査員による一次（書類）審査を実施。一次（書類）審査を通過した作品は二次（現物）審査に。

<二次（現物）審査>

一次（書類）審査を通過した作品の中から、審査員立会いのもと、審査員賞/海外作品賞/入賞/佳作作品等計約 100 点を選出。

・現物審査実施日 2022年10月23日(日)

・現物審査会場 国際障害者交流センター ビッグ・アイ

(3) その他

・授賞式の開催準備

・展覧会の開催準備

・図録、広報物の制作、発送

■ 情報発信事業

a. Webメディアによる情報発信

Webサイト「DIVERSITY IN THE ARTS TODAY」を運営し、実施事業の告知とともに、国内外の障害者芸術に関わる取材・ニュース記事コンテンツを継続的に公開発信し、内容の充実とユーザーの確保に努める。

日本語記事の適切な英訳を進め、海外の関心層にも日本のアート活動を紹

介する。

また、Web サイトのより一層のアクセシビリティ向上を目指し改修を進める。

コンテンツを整理・アーカイブ化し、Web サイトを構造的により効率の良い情報発信運用を行い、ユーザーの利便性及び集客数向上を図る。

b. ソーシャルメディアの活用

SNS (Facebook、Instagram、Twitter) とメルマガの戦略的運用とフォロワー数の増加を目指し、Web サイトへの誘導と実施事業の周知を促す。

c. 紙媒体による情報発信

Web メディア記事と連動した内容のフリーペーパー「DIVERSITY IN THE ARTS PAPER」を年2回発行し、全国への発送・配架依頼を進め、より多くの人への認知度をあげる。

主催・関連事業及び外部連携のイベント会場などで、バックナンバー含めたフリーペーパー配布を行うとともに、SNS を利用して Web 上で広報動画を流すなどの周知プロモーションを行う。

■ 多様性をテーマとした舞台芸術の活動

1. 目的・目標

パフォーミングアーツ事業部では、2019年度より、障害・性・世代・言語・国籍などの違いを超えて、皆が支えあう社会の実現を目指し、多様性をテーマとした舞台芸術の取り組みを行っている。本取り組みでは、当初2020年夏までに、国内で計4回の舞台上演、計2回のシンポジウム等を開催する予定で進めていたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、予定していたすべての演目をキャンセルし、その後は、オンラインでも同様のメッセージを国内外に発信することが重要であると考え、オンライン配信を取入れながら、映像・舞台作品の発表やトークイベントを開催してきた。

それらは一定の効果を生むことができ、多くの国内外の方に多様性のメッセージを伝えることができた。しかし、オンラインでの公演は対面での公演と体験として質の異なるものであること、過去の対面のイベントが東京を中心とした開催であったことから、全国に目を向けると情報発信・展開が不十分であること等の課題が残った。

そこで2022年度は、国内外とも対面とオンラインを組み合わせることでより力強い発信を行い、また、国内では地方でのイベントやワークショップの開催を行い、多様性の重要性を引き続き広く社会に伝えたいと考えている。

2. 事業内容

■ 多様性をテーマとした舞台芸術の作品発表及びワークショップ、トークイベントの実施

a. 「True Colors CARAVAN」

- ・ 時期 2022年4月～11月
- ・ 場所 恵比寿ガーデンプレイス（東京都）ほか、札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡の計7か所
- ・ 内容 10～30代の若者を中心とする一般層に向けて、障害のあるアーティストを中心としたパフォーマンス、ダンスワークショップ、及びラジオ番組とタイアップしたトークイベントを開催。誰もが参加しやすいアクセシビリティの高いイベントづくりを行う。

b. 「True Colors Festival in アゼルバイジャン」(仮称)

- ・ 時期 2022年6月24日～25日
- ・ 場所 バクー海岸公園（野外特設ステージ）
- ・ 内容 日本とアゼルバイジャンの外交関係樹立30周年を迎える2022年

「日アゼルバイジャン友好年 2022」の一環として、首都バクーにて“超ダイバーシティ芸術祭 True Colors Festival”を実施。日本とアゼルバイジャンの障害のあるアーティストが出演し、音楽やダンス等の多様なジャンルのパフォーマンスが展開されるライブイベントを通して、国境を越えて多様性のコンセプトを伝える。

c. 「True Colors パフォーマンスイベント」(仮称)

- ・ 時期 2022年10月下旬(予定)
- ・ 場所 調整中(東京都渋谷区)
- ・ 内容 障害のあるアーティストとともに作り上げるパフォーマンス&トークステージを展開。渋谷にあるホール(予定)を舞台に、多様性についてわかりやすく伝える、多彩なプログラムを行う。

■ 情報発信と広報PRの実施

ホームページやプロモーションビデオを利用した情報発信のほか、チラシ、ポスター、インターネット、ソーシャルメディア、メディアとの連携等、さまざまな媒体を通じた広報・PR活動を行う。

2022年度は、上記の各事業とも連携を図りながら、東京エフエムの若者向け人気番組「School of Lock!」とタイアップした番組放送を展開するほか、Twitterに力をいれたPR戦略、および、各事業のメッセージをより深くわかりやすく伝えるためのオンライン配信番組の制作を行う。

■ 障害のあるアーティストや差別や偏見をなくすため社会課題に取り組むアーティストの育成や支援を行う

国内外のパフォーミングアーツに関わるアーティストや関連団体の調査を実施。育成や支援のプログラムを行う。

日本財団DIVERSITY IN THE ARTS 収支予算

2022年4月1日～2023年3月31日

収入の部		支出の部	
事業活動収入		事業活動支出	
1. 事業活動収入	1, 429, 660, 480	1. 事業活動支出	1, 343, 330, 455
基本財産運用収入			
助成金収入計	167, 190, 000		
障害者アート事業の推進と情報発信	113, 900, 000	障害者アート事業の推進と情報発信	27, 570, 000
障害者のアート作品を展示する公募展の開催	53, 290, 000	障害者のアート作品を展示する公募展の開催	53, 290, 000
前期繰越金収入	1, 262, 470, 455		
企画展「日本財団DIVERSITY IN THE ARTS企画展2020(仮称)」の開催	930, 814, 177	企画展「日本財団DIVERSITY IN THE ARTS企画展2020(仮称)」の開催	930, 814, 177
多様性をテーマとした舞台芸術の活動	255, 382, 797	多様性をテーマとした舞台芸術の活動	255, 382, 797
多様性をテーマにした舞台芸術活動の全国ツアー	76, 273, 481	多様性をテーマにした舞台芸術活動の全国ツアー	76, 273, 481
雑収入(受取利息)	25		
2. 投資活動収入	0	2. 管理費支出	86, 330, 000
		3. 予備費支出	0
当期収入合計	1, 429, 660, 480	当期支出合計	1, 429, 660, 455
前期繰越収支差額	1, 982, 413	当期収支差額	25
収入合計	1, 431, 642, 893	次期繰越収支差額	1, 982, 438